

寄せられた意見

No. 124

受付日	H18. 5. 19	年齢		居住 市町村名	中川町
件名	サンルダムの計画の早期着工を求める				

平成18年5月19日

サンルダムの計画の早期着工を求める

天塩川上流に位置する下川町サンル川、計画から永年の時を経て断片的に工事がなされてきたが、反対運動の勢いに押され、事業が停滞しているのが現状では無いかと感じます。

私も、多くの反対意見を拝聴し、自然保護、景観保護、経済効果等あらゆる角度から反対であるとの意見、もっともな意見もあるが、しかし、本当に反対意見を唱えている方は、地域の方々だけなのでしょうか？いささか疑問に感じます。

私達下流に住む者にすれば、上流の治水は永年の悲願であり、人命の保護と財産の保全のためには必要最低限の暮らしの条件であると考えます。折しも、平成18年5月11日から12日にかけて、気温の急激な上昇と、雨により例年より多く積雪した雪が、一気に融け出し、危険水位まで達しました。更に追い打ちをかけるように、岩尾内ダムが満水となり、放水を行わなければ危険な状態となり、増水が2日間も続く中、未だどれだけ増水するのかと大変不安な日々を過ごしました。

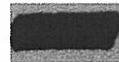
流域に住む人達にとっては、雪解け水や長雨、大雨が降る度に不安な気持ち襲われます。下川町の農業の方の住宅や農地が冠水し、生まれてこの方経験のない不安な思いをしたと新聞に掲載されました。当然、私達も同じ不安な気持ちを抱え、一日も早くこれらの治水ダムを完成し、不安を解消して下さるよう望んでいます。


このダムの建設に、道の負担が80億円掛かると反対意見を述べている方もおられますが、ひとたび災害が起きれば、この何倍もの投資をつぎ込んででも現状回復も及ばないと思います。なぜならば、河川治水の歴史をひもとけば、多くの先陣が治水との格闘の歴史であったと言わざるを得ません。大事がおきて誰が流域の方々の生活権を保証してくれるのですか？今一度原点に立ち返り、災害の抑制を考えるべきでは無いでしょうか。

世界的な異状気象により、各地で体験したことのない大きな災害が頻発しています。この流域で、どんな大災害が起きるか想像が付きませんが、過去の災害歴史の中に明確な答えが出ていると思います。

河川の直線化により増水時間が早くなり、また、水の減少速度も速いと言われる昨今、水を治め災害の無い、安心して暮らせる流域にして欲しいと願っています。

中川町



※  箇所は、個人情報等に該当するため黒塗りしています